

令和7年度士別市総合教育会議（第1回） 会議録

- 1 日 時 令和7年7月7日（月） 午後3時10分～4時30分
- 2 場 所 士別市役所2階 庁議・来賓室
- 3 出席者 【構成員】 渡辺市長、泉山教育長、馬場教育長職務代理者、加藤教育委員、
山田教育委員、多田教育委員
【事務局】 教育委員会 丸生涯学習部長、
岡田学校教育課長、千葉社会教育課長、
徳竹合宿の里・スポーツ推進課長
総 務 部 大橋総務部長
- 4 報 道 3名（北海道新聞、道北日報社、北都新聞社）
- 5 次 第
 - 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 協議事項
 - （1）令和7年度士別市教育推進の重点について
 - （2）士別市小中学校適正配置計画の進捗状況について
 - （3）公共施設マネジメント基本計画における施設のあり方について
 - 4 その他
 - 5 閉会

1 開会

○丸生涯学習部長

はじめに、渡辺市長からご挨拶いただき、その後、議長として進行願う。

2 あいさつ

○渡辺市長

日頃より士別市の教育行政にご意見等をいただいていることに感謝申し上げます。今後も皆さんの知見を活かしたご意見をいただきたい。

夏本番を迎え、スポーツイベントも始まり、来週13日には士別ハーフマラソン大会が開催

される。教育委員の皆さんにもお力添えをいただきたい。また、7月22日から25日まで、みよし市との交流事業で小学生の受け入れを行う予定となっている。

令和7年度は、温根別小学校の閉校式典、朝日地区義務教育学校への移行準備など、あらたな節目となる年であり、教育委員の皆様と行政がしっかりと連携をとりながら、教育行政の推進をしていきたい。

本日は、次第のとおり3点について協議をさせていただきたい。皆さまから忌憚のないご意見をいただきたい。

3 協議事項

○渡辺市長

(1)「令和7年度士別市教育推進の重点」について、「まなびフォーカス」について説明を願う。

○泉山教育長

令和7年度士別市教育推進の重点について、「まなびフォーカス」を昨年度から作成し、4月22日に開催した教育推進会議で確認していただいたものである。若干変更になった部分があり、各学校へは改めてお知らせするが、変更部分を含めて説明する。

「令和の日本型学校教育の構築」は、各種答申で言われている、子どもたちの良さや可能性、そして目標実現というところが現学習指導要領下の中でめざす姿ということになる。

「協働的な学び」については、対面の良さという面も含めて子どもたちを育てていくこと。

国の指針を受けて、北海道の基本方針には22の施策があり、「子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育の推進」が12項目、「学びの機会を保障し資質を高める環境の確立」が6項目、「地域と歩む持続可能な教育の実現」が4項目となっている。

次の上川教育局の重点は、道の22の施策に特化したもので、ここが変更になった部分で「いじめ防止の取り組みの充実」という項目については、上川教育局の重点では上がっていなかったが、6月下旬の「管内いじめ不登校等対策会議」で、今年度においても重点で取り上げるべきではないかとの意見から、教育局での協議を経て6月25日付で「いじめ防止の取り組み」を重点に入れるという通知があり、この部分を色付けし変更している。

次が「ウェルビーイング」の視点で去年と変わりはないが、OECD（世界協力開発機構）では経済発展中心から人間中心、子ども中心といった社会の新たなシフトへの変換ということで、ウェルビーイングという言葉で学校運営を進めていくという指針が出ているので、これに基づいて各学校に周知をしている。

次が士別市のフォーカスで、3つの視点「伸ばす」「安心」「連携」となっている。現行は「できた！知識・技能」「わかった！思考力・判断力・表現力」「やるぞ！主体的学習に取り組む態度」の3つを各学校で資質能力を伸ばしていくようお願いしている。

中教審で新たな学習指導要領の審議がされており、「主体的な学習に取り組む態度」は学校においても評価しづらいため、評価の客観性、妥当性、信頼性を高めるという意味で、評価が

「知識、技能」と「思考力・判断力・表現力」の2項目を基本に論議が行われている。

その下の3つの中の黄色部分が本市のスポットライトで、1つ目の「伸ばす」は、この3つの資質能力の評価基準をしっかりと設定すること。職業観・勤労観を育むキャリア教育である農業学習。心身の保持増進。特別支援教等、障がいに応じた適正な指導。

2つ目の「安心」では、情報モラルについて、1人1台端末で学習を進めており、学校や家庭においてもセキュリティ対策を行っているが、子ども自身に情報モラルを持たせるという意味で各学校が取り組んでいる。いじめと不登校については、学校も保護者も早期認知していこうというところ。それから、チーム学校として協力して対応することが大切となる。

3つ目の「連携」では、地域に開かれた教育課程の創造、これは現行の学習指導要領のキーワードになっている。地域人材の更新・発掘は、士別市はCSや地域学校協働本部で地域と一体となって教育活動を進めており、常に新しい人材を探していくということも大事であることから、人材リストを作成し各学校においても活用して地域に開かれた学校づくりを行っている。

次の「教育課程」で、2番目の全国学力・学習状況調査の結果が来週から各学校、教育委員会に届く。点数に現れた指導と評価の一体化というところで、できなかった部分はどのようにしてできるようになるか、できたところについてはそれ以上どうやって伸ばしていくか、という観点で分析を進めていく。

一番下の「指導の重点」は、各先生方が1時間1時間指導する中で留意していただくこと、何のためにこれをやっているのかを、しっかりとキーワードとして押さえて指導に向かってくださいということを重点としている。

この「まなびフォーカス」の観点に沿って、また学校の重点に沿って指導の改善に活かしていただきたい。

○渡辺市長

教育長から、士別まなびフォーカスについての説明があったが、委員の皆様からご意見等はないか。

○加藤委員

道の基本理念ということで、いじめ防止の取り組みの充実というのは、以前にも教育委員会会議の議題にもあがっていたが、最近のいじめの傾向は不登校とつながる部分が不明確であるとか、いじられているのか分からないというのもあって、令和の不登校やいじめの問題は難しいと思っており、ICTとかも含めて関係しているのかなと思う。特別支援教育の推進というところでは、士別市は支援の先生がたくさんいて、道の教育委員の会議でも士別市は支援が行き届いていると感心された。特別支援等に携わる先生方の学習などが年々難しくなっていて、先生方への教育の推進にも、市の方にご協力をいただければと思っている。

○泉山教育長

市の特別支援教育支援員は24名で、学校数や子どもの数で考えても充実している方だと感じている。会計年度任用職員の勤務時間は、子どもと向き合う時間数であり研修の時間は入れ

づらいのが現状である。特別支援教育の研修は支援員にも提供しておりオンラインでもできるが、勤務時間には含めづらい。個人的に受けている方もいるが、職務としては今の時点では難しく、検討課題として考えていきたい。

○渡辺市長

その他、意見等はあるか。

(意見なし)

次に、(2)士別市小中学校適正配置計画の進捗状況について、説明を求める。

○岡田課長

小中学校適正配置計画を本年4月に策定した。今後5年間の計画であり、温根別小学校の閉校について説明する。

温根別小学校については、昨年5月7日に温根別小学校PTA会長、同総会長、地域住民代表から要望書の提出を受けた。適正配置計画では、今年度、児童数が10人以下、3学級以下となるため、適正配置対象校となること、今後の児童数の推移、地域の事情等を総合的判断し、令和7年度末の閉校に向けて準備を進めることとしている。

閉校に向けては、保護者や地域への説明会を3回実施している。要望にある項目については、説明会の中で教育委員会の考えをお伝えしてきている。閉校準備として、地域の方が中心となって学校と協議し、実行委員会を立ち上げて、11月15日の閉校式典の開催、閉校記念誌の作成などの準備を進めている。また、6月14日に開催された運動会は、閉校記念大運動会として開催されている。

閉校後の校舎については、地域の方々が利活用を考えていることから、閉校後、早期に活用できるよう、市長部局とも連携しながら進めていく。

引き続き保護者や地域への丁寧な説明を行いながら、子どもたちの不安が軽減されるよう学校と連携して進めていく。

次に、朝日地区義務教育学校については、地域への説明会を昨年5月から4回実施し、地域住民との意見交換や保護者へのアンケートを行っており、その中では義務教育学校を望む声が多く、地域の子どもは地域で育てるという地域の熱い思いを再度確認することができた。

校舎は、今後の児童生徒数を鑑み、糸魚小学校校舎の一部を改修して利用することで準備を進めていて、地域へは11月11日の説明会において義務教育学校として準備を進める考えをお示ししている。

開校までの準備としては、校舎の改修をはじめとした協議を小・中学校とも行っており、今後、朝日地区義務教育学校設立準備委員会を立ち上げ、教育委員会、学校、PTA役員、学校運営協議会が連携し、令和9年4月の開校に向けて地域と一体となって準備を進める。

○渡辺市長

小中学校適正配置計画の進捗状況について、委員の皆様から意見、質問はあるか。

○多田委員

温根別小学校の閉校について、通学については中学生が利用するスクールバスを利用という

ことだが、バス停まで歩いていく、保護者が送迎するということに負担があるという地域の困りごとがある。バス停まで10分、15分行く間に熊が出る可能性もあって、できれば自宅まで送っていただけた方が安全面を考えるとありがたいという意見を聞いた。バス停までというのは地域的に難しいのではないかと思う。

○岡田課長

閉校後のバス通学について、これまでも他の学校の閉校を受けて統合先の学校へバスやタクシーで通うことがあり、一部の地域ではドアツードア、自宅の前までお迎えに行くということがあったが、現在、そこまでは考えていない。温根別小学校に通っているように、一定の場所までは来ていただきたいと考えている。

○多田委員

実際、熊が出るらしいので、安全面を考えると市のほうでも考えなければならない問題だと思う。

○渡辺市長

熊に関しては、温根別だけの問題ではなく他の地域でも出てきている。すべてドアツードアではないので、例えば大人が周りにつくであるとか、交通安全の意味も含めたやり方もあると思うので、他地区との整合性も含めて協議を進めていただきたい。

○山田委員

朝日地区義務教育学校について、地域の方々は義務教育学校に対する期待の声も大きいと思う。人口減少の中で初めて義務教育学校を士別市で開校することなので、ぜひ良い面を前面に出して成功裏にもって行っていただけるよう、義務教育学校の令和9年開校を目指していただきたい。

○泉山教育長

小学校、中学校の校長先生が職員も交えて、義務教育学校開校に向けての話し合いや研修を行っているという情報をいただいている。先日は、義務教育学校になったときの学校目標についても管理職中心に話し合いをしているということを知っている。校歌については、義務教育学校の例を見ると、小・中学校のどちらかの校歌にしている学校や、最初の1年間は両方の校歌をお互いの良さで歌い合い、開校してから校歌を作るなど、上川管内でも義務教育学校があるので、そういった先行事例を集めながら進んでいる。

8月までに準備委員会を立ち上げていく段階であり、地域の方の意見も反映していきたく考えている。

○馬場代理

義務教育学校について、開校まであと2年ないが、糸魚小学校の一部改修はいつごろから工事が始まるのか。

○丸部長

令和8年度に入ってからを想定している。国の補助を一部使うことを考えており、その要望、申請をしている状況。予算については令和8年度予算に計上する考えである。

○渡辺市長

その他に意見等はあるか。

(意見なし)

次に、(3)公共施設マネジメント基本計画における施設のあり方について、説明を求める。

○丸部長

公共施設マネジメント基本計画における施設のあり方については、昨年11月に市から方針を公表し、2月にはまちづくり懇談会を開催した。今後、7月28日から8月1日まで、2回目のまちづくり懇談会で、教育委員会が所管している7施設について説明を行う。

文化センター大ホールについては、2月時点の市の方針としてサンライズホールへ令和12年3月までの5年目に統合。朝日スキー場については8年3月廃止。朝日プールは8年3月廃止。天塩川パークゴルフ場は9年3月廃止。つくもスケート場は9年3月廃止。朝日公民館の壬子分館・三栄分館・登和里分館は8年3月廃止という方針を示している。

2月のまちづくり懇談会では、様々なご意見やご理解をいただき、この間、教育委員会としても関係団体や利用者と協議をしてきている。

提案している方針に基づいて、様々なご意見を内部でも協議しており、これについては7月28日から各地区を回って現時点の市の方針を示し、引き続き市民の皆様と協議の場を想定している。

○渡辺市長

公共施設マネジメント基本計画における施設のあり方について、委員の皆様から意見、質問はあるか。

○加藤委員

今回、教育委員会が所管している施設について示しているが、現状で廃止していくということになっているが、状況によっては変わる可能性もあるのか。

○丸部長

現時点の市の方針を示している内容であり、提案をさせていただいている形になるが、各団体との協議で意見をいただき、内部での協議を行い、改めて説明をさせていただく考えである。

○加藤委員

士別市が保有する公共施設のあり方について、計画的に見直しを行っていくことで、身の丈に合った公共施設の運営やサービスというのは、市の運営にとっての話で、市民からすると身の丈に合ったというのは、どこなんだという話になる。

○渡辺市長

人口に見合った行政サービスと公共施設の設置という意味である。

○加藤委員

市民的には大ホールにしてもそうだが、朝日の人に見てみたら、スキー場にしてもプールにしてもあるのが当たり前で、士別にしたら文化センターがあるのは当然で、スケート場やカー

リング場もそうである。確かに身の丈に合った、人口減少もあるのは分かるが、まちづくり懇談会やアンケートなどで、どこまでそのことが伝わっているのか。大ホールの収容人数を考えると小ホールでは無理だし、サンライズホールではできるのか、輸送能力があるのかなど、難しい部分も出てくるのではないかな。

令和12年3月となっているが、今後どのようなようになっていくかは確定ではないという部分を確認したかった。

○馬場代理

文化センター大ホールやあさひスキー場の存続についての要望書は市長のところに届いているのではないかなと思うが、高齢者の方々からすると、娯楽というのはこの街ではそんなになくて、11月3日の文化祭を見るのが楽しみで、それを朝日まで見に行かなければならない。ぷらっとの利用者からは、自宅にも風呂はあるが、だんだん体が利かなくなって掃除が大変なので通っているのに、そこもなくなってしまうのかと。大ホールもなくなるし風呂もなくなるし、高齢者に優しくないという声が聞こえてくるのが心痛いかなと思う。予算がない、お金がないのは分かるが、そういった気持ちをどこかでくみ取れる工夫のようなものは、挑戦していただきたいと思う。

○渡辺市長

これまで市民の皆さんや議会にも説明しているとおり、平成29年に公共施設マネジメント計画を策定している。士別市の公共施設、インフラ関係を含めて更新に年間約32億円かかるという数字がある。その他の道路や橋梁を合わせると年間約10.7億円プラスになり、合計で約42.3億円かかる。これが25年にわたって必要になるというのがベースにある。それに対して、公共施設の更新に充てられる士別市の財源は年間約35億円弱で、年間7.5億円不足する。それを25年かけて20%削減しなければ、公共施設の維持のみならず公共サービス、行政サービスが立ち行かなくなるとというのが、この計画を策定したきっかけになっている。加藤委員からご指摘があったとおり、市民に浸透しているのかという部分で言うと今回は浸透していなかったという反省点はある。

ただ一方では、当時から市の広報紙やいろいろな媒体、ホームページにも掲載しているが、あまり関心を持って見ていただけなかったというのも実情なのかなと思う。積極的に行政側から発信をしていかなければ、こういった部分は浸透していかないと思っている。

現在、協議中で確定しているものではないが、総論として大体の団体や市民の方も理解は示していただいているという認識はある。ただ、一つひとつの施設になってくると自分が使っている施設は残したいという中で、例えば、文化協会も今の耐震化されていない施設をいつまでも使えるとは思ってなくて、500人が入れる施設を新たに作ってほしいということでもない。これを延命したらいいのかという話になると、耐震化するにも数十億円はかかることになりそれも厳しいと思われる。500人が入るイベントは文化祭など年に何回かで、その数回のために公正公平に使う市の税金も含めた財源を充てるのが本当に正しいのかを考えると、受益団体との協議のほかに、市民全体の声の集約も必要ではあると思うが、取りづらいところであ

る。自分が直接関係ないところについて意見を発する人がいないので、そういった意見が出てこないのかなと思う。

完全に納得していただいて先に進むことは難しいのかもしれないが、ある程度の理解を示していただいて、最良の方向で物事を進めたいと思っている。

直接今回のことには関係ないが、上川管内の市町村で話し合っているのは、各々の自治体で同じ趣旨の施設を全部置くのは難しいと皆さんが思っていて、例えば、名寄市で言えば、エンレイホールがあるので、近隣の市町村は同類施設を作らないでそれを活用するようにして、名寄市にない別の公共施設を周りで作ろうという、お互いに使い合うような、そういったような考えのもと、そういう会議体を上川総合振興局内で去年立ち上げた。今後はもしかすると、ハード的な部分も共有できるような仕組みで行政を進めていかないと、立ち行かなくなるのかなという現段階での考えである。

○山田委員

少子高齢化や人口減少があつて、総合的に、やはりこの街はいい街と言っていたけるといところの方向性は、やはり持たざるを得ないのかなと思う。

市長が言うように、スキー場があつたらいいのか、なかったらいいのかと言ったらあつた方がいいだろう。大ホールもあつた方がいいという部分では、将来を見据えて考えた時に、納得性の高いところというのが、市民の皆さんには浸透してこないところだと思う。32億円かかるという話から、最終的に20%の削減という流れはわかるが、自分の身に降りかかった時に、その20%をどのように自分たちで消化できるのかというのが、まだまだ厳しいところ。まちづくり懇談会で解決するには、ハードルは高そうだという印象がある。

前回、朝日の懇談会での公民館の話で、壬子の分館1つとってみてもなるほどと思うが、そうとは言えなというような感じで終わるというのを繰り返すのかなと思う。そこをなんとかしていく方法があれば、困らないのかと思う。妙案はないが、ぜひ納得性の高い計画であつてほしい。

○渡辺市長

今まであつたものをなくすわけなので、これまでの施設を守るための思いや利便性など、市民の皆さんの色々な考えがあるのは承知はしていた。ただ今回、説明が遅れたという部分がずっと尾を引いてしまって、本当は理解を示していただけることでも、急に言われても話は聞けないという部分があると思う。ただ、話をしている中では、感触としては理解をしてくれている気がする。このままでは多分もうもたないのはわかる。その話し合いの時に、うちだけ守ってほしいという言い方をされる方が多く、総論として考えていただきたいが、なかなかそこに至らない。

○馬場代理

市長が言った名寄にエンレイホールがあるから違う地区に違う施設を置いたらいいというのは、車で移動ができる方がいいが、高齢なってくると演劇をサンライズホールまで見に行きたいが足がないとか、そういった方たちは文化ホールがあつたらいいのにといい気持ちが強くな

と思う。ただ、サンライズホールに通いやすい、何かあるたびにバスが出るとか足に困らないのであれば、大ホールがなくてもいいという感じになるのかなとは思う。

○渡辺市長

そこは公共交通の役割なのだと思う。

○馬場代理

J Rも便が減る、バスもなくなるとなれば、娯楽というのがそぎ落とされてくるから、街中に娯楽を求める。サンライズホールに通いやすくなったから、大ホールがなくなってもステージに立つ機会もあるし、練習に行くにしても問題ないとなれば、文化協会の皆さんも納得いただけるのではないかなと思う。

○渡辺市長

大ホールの300人規模のイベントにしても文化協会が開催しているものがほとんどで、来られるのは大半が高齢の方である。10年後を考えたときに、そのようなイベントがあるのか考えたら、相当厳しいと思う。若い方が集まるようなイベントを企画するにしても、なかなか人が集まらず、苦勞している。

○多田委員

中学校、小学校の音楽祭を考えたら、もうできなくなるのではないかなと思う。

○渡辺市長

今まで自衛隊や警察の音楽隊は、総合体育館で行っていた。そういう使い方も可能性としてはあるのではないかなと思う。

○加藤委員

教育関係のものは、お金をかけても明日、あさってに見えるものではない。生涯学習もそう、目の前でお金出しても来年見えるものではない。スポーツで言ったら、陸上競技場はトラックがもう老朽化が進んでいて、基本的な建物もどうなのかという感じもしたりもする。やはりお金をかけても、人間の文化的な生き方とかスポーツとか、すぐさま見えるものではないので難しい。それに対して、ある程度国が動いてくれると、文化活動もスポーツ活動も、やはり教育の一環で、子どもやお年寄り、われわれ市民がいろいろな面で成長できたりするところを理解して、そういうところに投資していただけるととても助かる。

○渡辺市長

教育分野、教育行政は人に対する投資の部分なので、すぐに成果が出ない。ただ、本当にお金が無くなってくると、どこを減らすとなった時に、減らされやすいのがどうしてもそこになってしまう。これをやっていると、土別の市政全般において全部中途半端になってしまう。もう一歩踏み込んだら成果が出ると思うが、そこまでいけない。特にこれからの教育は、少子化の中、ものすごく重要だと思っている。

○大橋部長

合併した当時20年前は、2万4,000人の人口がいて、今は1万6,000人。10年後には1万2,000人、20年後には8,000人。その少ない人数で、もともとあった公共施設を支えきれ

ない。どうしても必要なものというのは、私ども予算を預かっている部局としては、お金を借りたり貯金を切り崩したり、どうしてもやっていかないとならないと思っている。全てを維持しながらというのは難しいところにきていて、地域ごとに施設に対する文化や愛着、歴史もたくさん積み重なっているの、利用者や関係団体との意見交換、調整というのは平行性をたどるといえるか、総論は理解してくれるが、一つひとつの協議になると厳しい状況である。

総合体育館は50年を過ぎていて雨漏りもしている。屋根の上に登るハシゴも取れてしまって、屋根の確認ができない状況になっている。総合体育館や市立病院も議論が始まっている。必要なものはこれからも建てていかなければならないが、我慢しなければならない施設も出てくる。その協議をしているが難航している。

○山田委員

土別市だけの問題ではなく、上川総合振興局の全体でそういう話になっているとのことだが、その段階でもう限界というような気がする。

○渡辺市長

札幌市以外の人口が多いトップ12のまちで、令和7年度の予算が財政調整基金を崩して予算を組んでいる。もともとの理由は人口減少だが、想定していないスピードとなっているという部分と、それに対して国からの支援が薄いという部分で、地方交付税制度が現行のままだと数年でだめになると思う。それを今、国の方でも気づいてくれていて、例えば公設の病院を置いているようなところも地方交付税に算定されていて、それも見直ししなければならないと言ってくれていたり、診療報酬の見直しもしなければならなかったり、ちょうど今、過渡期といった感じである。

○山田委員

どれだけ延命ができるか、長続きさせることがテクニック的にできるかというところが勝負どころで、それが少しでも短くしてしまうとその時点ではなくなってしまうし、いくらかでも先延ばしすることができれば何とか生き延びるかもしれないという、本当に過渡期になっている。あの時にああしとけばよかったとなるのが一番怖いという、そういう状況だと思う。

○渡辺市長

説明のときには同じことを言っていて、私たちがいなくなった後に、20年後、30年後にあの時こんなことをやっていたら大変なことになっていたということだけは避けなければならない。

○大橋部長

少し余談になるが、私が今結構悩んでいるのが、市民の方との情報共有というのがすごく悩んでいて、今報道機関の方もおられましたけど、新聞で結構告知してくれる。私ども、ホームページ、広報やフェイスブックなどで情報提供しているが、今、新聞を読まない、広報はいらない、自分の必要な情報しか取りに行かない、そういった世代の方が多くなってきている。だからまちづくり懇談会をやると言っても知らない人が多い。興味がない、そういった方々にどう情報を届けに行くか、取りに来てもらうか、それをどうしたらいいのか悩んでいる。

○渡辺市長

議会でも情報発信のご指摘を受けるが、大橋部長が言ったように、多分知っているけれども行かない、要するに無関心層はいると思う。私もフェイスブックでいろいろ発信しているが、話題によってはすごく反応があるけれど、全然反応がない時もあったりするので、関心がないところには顔を出さなくていいという市民が多いと思う。しかし、何かあった時には困ってしまうから、何とかしてほしいということだと思う。

○大橋部長

若い世代の方に多いと思っていたが、最近は高齢の方も自治会を外れたり、新聞をとらなくなったりしているので、市の情報が届かないことがある。課題などを市民の方と共有できないというもどかしさもある。

○山田委員

これだけ一生懸命に、まなびフォーカスなどを作ってやっているけれども、少子化や人口減少で言うと、絵に描いた餅になってしまわないかという恐ろしい現状である。

○加藤委員

士別市は特別支援員を多く配置していただいて、子どもたちに対して手厚いと思うが、そこに携わる人たちがやはり少ない。そういうのを担当している先生方を見ると、子供に逃げられたりとかして、やはり学んでないに対応の仕方がわからないと思う。教育は明日が見えないが、明後日になったら良くなるかもしれないし、来年になったら良くなるかもしれないし、そこに支援していかなければならないことだと思う。

この間の陸上競技場の改修の件もそうだが、改修をしておかないと今まで合宿で来てくれたものを全てなくしてしまうことになってしまう。そういうのも含めて、施設をなくす、それに対して何とかならないのか、どういう施策が取れるのかという建設的な意見を言ってほしいと思う。

○馬場代理

人口がどんどん減っていったって、士別市にお金が無くなるのであれば、外から合宿などで士別市に来ていただける方々はありがたい存在だと思う。

○渡辺市長

士別市民の皆さんの感覚はだいぶ変わったと思う。以前は、市民が使わない施設になぜお金をかけるのかと言われていたが、今はあまり聞かなくなった。危機感を持っていて、合宿などでお金を落としてもらうために、そういう使い方をしなければならないという人が増えていると思う。

○馬場代理

陸上の合宿には歴史があって、合宿の地ということで有名になって、そこで育った子たちが箱根を走ったりする。今すぐは見えないが10数年経って日の目を見る選手たちが出てくると、陸上の合宿のまちが成功という気がする。

○渡辺市長

そういうことが結局、小学校とか義務教育段階の子どもがいる家庭ぐらいのときの市民の応援の仕方とかもあると思う。ふるさと土別と思っていていけば必然的に出ると思う。その辺りを今後、土別の教育の体制というか、教育の場としてそういう風土を作りたい。まち全体で応援をするような形にしていきたい。

○渡辺市長

いろいろとご意見をいただいたが、現状の取り組みについては、委員の皆様からご心配の声があったとおり、なかなか一筋縄ではいかない部分もあるが、あくまでも将来の土別市民のためと思っていますので、委員の皆様方におかれましては、ご理解をいただいてフォローアップしていただきたい。

全体を通して何か最後にご意見はあるか。

(意見なし)

以上で、令和7年第1回目の総合教育会議を終了する。

【 会 議 終 了 】